



坂戸市長 石川 清氏

## 市長のメッセージ

埼玉県のほぼ中央に位置し、清流として知られる高麗川が流れる坂戸市は、都心から約45km、市内に東武東上線、関越道、圏央道が通る交通利便性の高いまちです。

平成25年に開通した関越道坂戸西スマートIC周辺では、県内最大級のマルチテナント型物流倉庫が稼働するなど、土地活用と産業振興に向けた施策が進展しています。

今後も、将来都市像「笑顔でつなぐ躍動のまち、さかど」の実現に向け、各分野における施策を着実に進め、坂戸市に住みたい、住んで良かったと感じていただける「選ばれつづけるまちづくり」に取り組んでまいります。

## はじめに

坂戸市は、都心から45km圏内に位置し、東は川島町、南は鶴ヶ島市と川越市、日高市、西は毛呂山町、北は東松山市と鳩山町にそれぞれ接している。市域は、東西約12.7km、南北約9.3kmで、面積は41.02km<sup>2</sup>、人口は10万人を超えていている。

市内には、東武東上線坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅、東武越生線西大家駅の4つの鉄道駅に加え、圏央道坂戸ICと関越自動車道坂戸西スマートICがある。関越自動車道鶴ヶ島ICを身近に利用できることもあって、交通の利便性が非常に高く、急速に宅地化が進んだ。一方で、市内には関東でも有数の清流である高麗川こまがわが流れ、田園風景や里山など、水と緑に恵まれた自然豊かな環境が残されていることから、都市機能と自然が調和した暮らしやすいまちとして発展を続けている。



東武東上線坂戸駅北口

## 子育てにイイところ

都心からのアクセスが良く、豊かな自然に恵まれた坂戸市は、子育てに最適なまちである。市は、「将来を担う子どもたちを応援するまちづくり」を重点施策に据えて、様々な支援を行っている。

その一つが、学校給食における自校調理方式の導入である。市内の小・中学校では、手作りの味を大切にした市内統一の献立（小・中学校は別献立）になっている。鶏ガラ、煮干しなど自然の味を生かしただしや、地元産の安心・安全な食材を活用しながら、おいしい学校給食を子どもたちに提供している。

また、市内には4つの児童センターがあり、子どもたちが自由に遊び、多くの仲間とふれあいながら楽しく過ごすことができる。「赤ちゃんサロン」などの乳幼児対象のイベントも開催され、親子で遊んだり、親同士が交流できる場でもあり、ここで子育ての情報を入手したり、保育士や児童厚生員に悩みを相談したりすることもできる。ほかにも14の学童保育所を有するほか、一部の小学校では、地域の方々の協力のもと、学習やスポーツ、昔の遊びなどを行う「放課後子どもげんき教室」が開催されるなど、子どもたちを受け入れる施設が大変充実している。

子育て世帯の経済的負担の軽減や子どもたちの健やかな成長のため、中学3年生までの医療費を通院・入院ともに「所得制限なし、自己負担なし」で助成している点も魅力的で、まさに坂戸は「子育てにイイところ」だといえよう。

## 坂戸市概要

人口(2020年8月1日現在)	100,559人
世帯数(同上)	46,441世帯
平均年齢(2020年1月1日現在)	47.2歳
面積	41.02km <sup>2</sup>
製造業事業所数(工業統計)	93所
製造品出荷額等(同上)	1,458.6億円
卸・小売業事業所数(商業統計)	487店
商品販売額(同上)	876.9億円
公共下水道普及率	72.3%
舗装率	72.5%

資料:「令和元年埼玉県統計年鑑」ほか



## 主な交通機関

- 東武東上線 坂戸駅、北坂戸駅、若葉駅  
東武越生線 坂戸駅、西大家駅
- 関越自動車道 鶴ヶ島ICから市役所まで約1km  
坂戸西スマートICから市役所まで約2km
- 圏央道 坂戸ICから市役所まで約6km

## 桜のまち、さかど

坂戸市には市内各所にたくさんの桜の名所があり、市民が身近に桜を楽しむことが出来ることから、2006年に桜を「市の木」に選定した。

数ある桜の中でも、最初に春の訪れを告げるのが、北浅羽桜堤公園の安行寒桜である。越辺川の右岸およそ1.2kmにわたって植えられた約200本の早咲きの桜は、淡紅色の一重咲きで、3月中旬頃に見事な花を咲かせて、人々を楽しませてくれる(表紙写真)。

また、慈眼寺のシダレザクラも一見の価値がある。樹高15m、幹周り1.7mを誇るこの大樹は、樹齢260年以上といわれ、大きく張った枝から薄いピンク色の花をつけた細い枝が真っ直ぐに垂れ下がる大変優美な姿をしている。坂戸市の天然記念物に指定されており、地元の人たちを中心とした保存会の手で大切に見守られている。

## 坂戸市葉酸プロジェクト

坂戸市は、2013年度に策定した第2次坂戸市健康なまちづくり計画に基づき、市民の健康長寿実現に取り組んでいる。その中心的事業の一つが「坂戸市葉酸プロジェクト」である。

葉酸は、ブロッコリーやはうれん草などの緑色の野菜に多く含まれるビタミンB群の一種である。タンパク質や細胞の新生に重要な役割を果たすことから、細胞増殖が盛んな胎児の健やかな発育に必要不可欠な栄養素であり、特に妊娠期や授乳期の母親は、

充分な量を摂取することが望ましいとされている。また、近年の女子栄養大学の研究により、葉酸は、認知症や脳梗塞等の予防にも効果があることがわかつてき。こうした葉酸の健康面に果たす役割に着目し、その積極的な摂取を目指すのが、「坂戸市葉酸プロジェクト」で、市では1日400マイクログラムの葉酸を摂取するよう市民に呼び掛けている。

具体的な取り組みとして、主に葉酸を多く含む野菜の摂取を勧めて、市民の食生活の改善を促しているほか、婚姻届提出時や母子健康手帳の交付時には、葉酸関連商品であるビタミン強化米を贈呈している。また、葉酸を多く摂取できるなど、栄養に配慮したメニューや食品等を提供する店舗を「食を通じた健康づくり応援店」として認定している。応援店は、毎年、4月3日(よさん)にちなんでサービス提供を行う「葉酸フェア」を開催するなど、市民の健康づくりを積極的に応援している。 (井上博夫)



葉酸が多く含まれる緑色の野菜